

夢科学探検における放射線クイズの実施報告

1) 齋藤希, 1) 白石善興, 2) 上村実也

1) 生命資源研究・支援センター, 2) 企画運営室

1. はじめに

2011年3月11日の福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、放射線が注目されている。メディアによる誤った放射線用語の使用や、一部の専門家の見解を使った報道により、放射線に対して過剰な不安が広まっている問題がある。そこで、昨年度に引き続き、大学祭の期間中に開催している夢科学探検で、放射線に関する理解を深めてもらうことを目的とし、放射線クイズや自然放射線を測定する体験を行うテーマを出展した。

日時：平成27年11月1日10～15時

場所：熊本大学工学部2号館1階玄関ホール

2. 実施内容

(1) 放射線クイズ

クイズの内容は、昨年度の問題を改訂し、新たに放射線の社会利用に関する問題を加え、全7問出題した。掲示板に貼った問題(3択問題, ヒントを記載)について、配布した解答用紙に正解と思う番号を記入してもらう形式にした。来場者に対し、クイズ内容に関することや質問への説明を随時行った。

全問正解した来場者には、参加賞として手作りのアクリル製のメダルを配付した。メダルは機械加工グループの廣田様をはじめ、同グループのメンバーの方々から、レーザー加工機(ものくり工房に設置してある)等の使用のご指導をいただきながら作成した。

(2) 放射線測定及び放射線の可視化

NaIシンチレーション式サーベイメータやGM管式サーベイメータなどの放射線測定器を用いて、空間の放射線量や肥料・昆布に含有するK-40等の線量測定体験を実施した。さらに、放射線の飛跡を可視化する霧箱を作成するコーナーや作成済みの霧箱の展示を行った。

(3) 放射線の印象に関するアンケート調査

クイズの解答前後で放射線に対するイメージの変化を見るため、今年度新たにアンケート調査を行った。設問は全9問であり、放射線に対するイメージ、放射線を利用した日本の研究等の認識を調べた。

3. 結果

小学生、中学生及びご両親並びに本学学生等、10歳未満から70歳代まで幅広い年齢層、約70名の方々にご来場いただいた。親子で関心をもってクイズに取り組む様子や、メダルを受け取り喜ぶ子供たちの様子が見られた。

また、放射線クイズ前後のアンケート調査では、放射線に対するイメージの改善や放射線への理解の深化が見られた。これらのことから、来年度も引き続き、この取組を行うことに意義があると言える。